市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－①	環境美化促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	観光地の景観を維持していくために観光地及び観光地へのアクセス道路などの美化・緑化活動を重点的に実施する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,952	8,855	9,600	12,375	
	(b) 予算現額	3,421	6,965	6,684	8,475	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,531	▲ 1,890	▲ 2,916	▲ 3,900	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)	3,421	6,965	6,684	8,475	
B. 執行済額		3,376	6,965	6,684	7,266	
うち交付金充当額		2,701	5,572	5,347	5,813	
次年度繰越額		—	—	—	—	
執行率（%）(B/A)		98.7%	100.0%	100.0%	85.7%	
予算の状況の説明		観光地、観光アクセス道路20カ所の美化作業に必要な作業員の賃金及び消耗品及び燃料の購入を行った。９月補正により3，900千円を減額した。当初計画していた観光地、観光アクセス道路20カ所の清掃美化作業、植栽活動は実施できた。不用額1，209千円は天候不順の際に実施できなかった作業員賃金の減によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
観光地及びアクセス道路の美化	目　標	（　20カ所　）	（　20カ所　）	（　20カ所　）	（　20カ所　）
	実　績	20カ所	20カ所	20カ所	20カ所
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：本村の観光地5カ所・観光アクセス道路15カ所合計20カ所において、美化活動を実施した。また、観光地5カ所（大正池、ウーグ、東ヤマトゥガー、ヤヒジャ、洞寺公園）で植栽作業を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
観光地及びアクセス道路の美化	目　標	（　　）	（　20カ所　）	（　20カ所　）	（　20カ所　）	（　　）
	実　績		20カ所	20カ所	20カ所	
植栽により、粟国の玄関口である港や空港等に彩りのもてなしを行い、景観整備を図る。	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（港・空港植栽をする）	（　　）
	実　績				港・空港の植栽ができなかった。	

進捗状況説明：観光地（5カ所）及び観光地へのアクセス道路（15カ所）計20カ所で広範囲に渡り美化作業や観光地での植栽作業を実施したことで、観光地としての景観が向上し、観光客を受け入れるための環境が向上した。港の植栽は台風の影響、空港は8月末の航空事故により運休が続いたことにより行わなかったが他の観光地の植栽を行った。

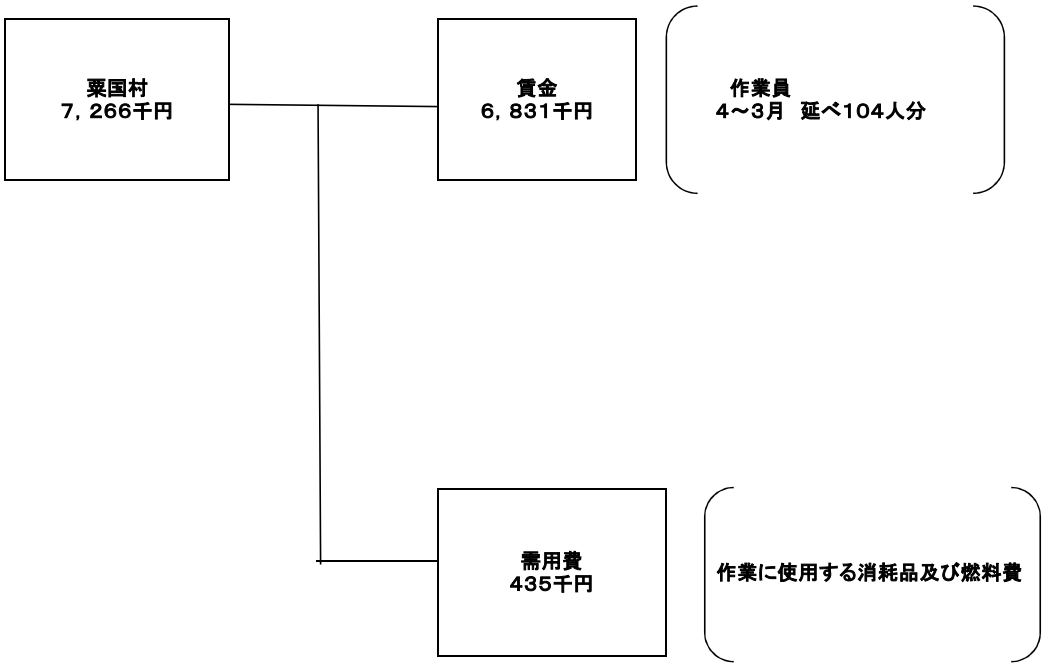
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	粟国村への観光客の誘客の受け入れに向けて、観光地及び観光地周辺道路の景観の維持向上を図る必要がある。天候不良により作業休止に伴う作業日数の減少が生じた。	集客の見込める夏場に美化活動のスタートすることができた。観光地及び周辺道路の美化・緑化を推進する事で、観光客が再び訪れたくなるような景観の整備が図られた。 賃金職員の採用については年間を通して就業するよう指導するほか、計画的に人員を配置し、作業効率のアップに繋げる。 台風等の襲来にも対応できるよう、移動できるプランター方式にするなど工夫を行う。

今後の取り組み方針

観光客が再び訪れたくなるような景観を維持するため、観光地やアクセス道路の美化作業のみならず、さらなる緑化（植栽）を推進し、観光振興を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,266	7,266	5,813	1,453	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、賃金職員を村規定に基づき採用している。 ○予算規模についても、村規定に基づき積算し予算計上している。 ○費用・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	あぐにデジタルアーカイブ化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3ー（12）ーア 観光リゾート産業の振興
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成25～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー1ー（1）
事業内容	島の豊かな自然や伝統文化等、島にまつわる多種多様な資料をデジタル化し、それらを管理システムに集約・管理し利便性を向上させることで、村民および観光客の郷土学習に付加価値をつけ、粟国観光の質を高める。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	21,000	22,248	30,223		
	(b) 予算現額	17,850	19,440	30,223		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,150	▲ 2,808	0		
	(d) 繰越額	―	―	―		
	A. 計 (b+d)	17,850	19,440	30,223		
B. 執行済額		17,850	19,440	27,000		
うち交付金充当額		14,280	15,552	21,600		
次年度繰越額		―	―	―		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	89.3%		
予算の状況の説明		不用額3，223千円は、設計額の見直しによる予定価格の減、及び契約額の残によるものである。 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所は事業計画上は、第3章-3-（2）-オ　産業間連携の強化となっておりますが、記載間違いであり、検証シートでは、正しい箇所第3章-3-（12）-ア　観光リゾート産業の振興を記載しています。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
追加コンテンツ制作及び展示会の開催	目　標	追加コンテンツ制作及び展示会の開催	（　）	（　）	（　）
	実　績	追加コンテンツ制作及び展示会の開催			

達成状況説明

追加コンテンツとして、戦前の新聞からの粟国関連資料3,687点投入、バーチャル古民家１棟作成投入、電子書籍として広報あぐに43冊作成・投入、デジタル紙芝居26話作成・投入、観光特設ページ、魅力発信コンテンツを作成し、当初計画していた活動目標を達成した。また、ふくらしゃる粟国今昔展（那覇・粟国）を開催し、当初計画していた活動目標を達成した。（那覇開催734名、粟国開催418名）

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
追加コンテンツ制作 ・バーチャル古民家1棟 ・デジタル紙芝居26話 ・戦前の関係記事のデジタル化	目　標	（　）	（・バーチャル古民家1棟 ・デジタル紙芝居26話 ・戦前の関係記事のデジタル化）	（　）	（　）	（　）
	実　績		・バーチャル古民家1棟 ・デジタル紙芝居26話 ・戦前の関係記事のデジタル化			
展示会開催 ・那覇で1回、粟国で1回	目　標	（　）	（那覇で1回 粟国で1回）	（　）	（　）	（　）
	実　績		那覇で1回 粟国で1回			

進捗状況説明

平成25年度よりシステム構築しつつ、今昔展開催等を行うことより島民および村出身関係者等へ告知を行い、平成26年度は5,000点以上の個人所有の写真を収集できコンテンツ化・システム投入できた。本村関係者へはこの島への郷土愛を再認識でき、観光客へは本村の歴史的情報も提供できた。今年度は、コンテンツ量が乏しい戦前時代から新聞記事のデジタル化、教育教材としても利用可能な民話のデジタル紙芝居26話を投入でき、システム拡充が出来た。当初の成果目標を達成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	情報募集のチラシ配布や新聞での展示会告知等によって、資料の収集が進んでいるが、システム活用の認知度がまだ低く利用実績が伸び悩んでいるなどの課題がある。	システムの停滞・陳腐化を防ぐため、情報提供の定期的告知、村内および郷友会等関係団体への協力依頼を行い、引き続き検討委員会等を開催し、新規コンテンツの追加や展示会を開催する。

今後の取り組み方針

更なる観光客への付加情報の提供、村関係者への郷土愛醸成等を図るため、資料の情報提供を定期的に依頼をする。
展示会等各種イベントにおいて本システム（ホームページ）の告知強化を行う。
観光振興を目的とし、アクセス数を増やすためコンテンツ拡充を定期的に行い、郷土教育に寄与できるよう展示会を継続して行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,000	27,000	21,600	5,400	0

粟国村
27，000千円

委託料
27，000千円

丸正印刷株式会社
27，000千円

あぐにデジタルアーカイブ化事業委託業務
（新聞記事調査・投入、バーチャル古民家作成・投入、
デジタル紙芝居作成、投入）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については3社見積に基づいて適正に積算を行っている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－③	粟国村「ア」のくにづくり推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２６～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

島の自然や伝統文化などの地域資源として広めていくため、マスコミやマスメディアを活用し、イベント等への誘客を図り、イベントの開催、観光ツアーを実施する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	15,120	26,676			
	(b) 予算現額	15,120	26,676			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	15,120	26,676			
B. 執行済額		15,120	25,233			
うち交付金充当額		12,096	20,186			
次年度繰越額		—	—			
執行率（%）(B/A)		100%	94.6%			

予算の状況の説明：不用額1，443千円の内訳として、粟国村「ア」のくにづくり推進事業委託料の1，135千円は精算時の実績による減、粟国村広報用ラッピング車両制作及び施工業務委託料308千円は精算時の実績による減によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
○イベント開催	目標	（粟国島「ア」の国まつり開催1回）	（粟国島「ア」の国まつり開催1回）		
	実績	粟国島「ア」の国まつり開催1回	粟国島「ア」の国まつり開催1回		
○観光ツアー1回	目　標	（観光ツアー1回）	（観光ツアー1回）	（　）	（　）
	実　績	観光ツアー1回	観光ツアー1回		
○ラッピングカーの活用による村内外へのPR活動	目　標		（ラッピングカーによるPR活動の実施）	（　）	（　）
	実　績		ラッピングカーによるPR活動の実施		

達成状況説明：○イベントの開催1回（8/29～30）・・・村出身者による芸能公演、ゲストライブ、カラオケ大会、レーザーショー、打上花火等を行った。　○観光ツアー・・・集落散策、ノルディックウォークの実施
○ラッピングカーによる村内外へのPR活動・・・離島フェア（11/21～23）、村新年会（1/9）、イオン那覇店物産フェア（2/20～2/21）
当初の活動目標を達成できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
○イベント来場者数：800人	目　標	（　）	（300人）	（800人）	（　）	（　）
	実　績		680人	800人		
○観光ツアー参加者満足度調査：満足と答えた人70%	目　標		（70%）	（70%）		
	実　績		90%	88%		
○PRグッズ制作：2点	目　標		（2点）	（2点）		
	実　績		2点	2点		
○ラッピングカーの活用による村内外へのPR活動	目　標	（　）	（－）	（10回）	（　）	（　）
	実　績		－	3回		

進捗状況説明：
・粟国島「ア」の国まつりでは村出身者による芸能公演、ゲストライブ、カラオケ大会レーザーショー、打上花火等を行い、盆休みの帰省客があったため、目標とするイベント来場者数の800人を達成することができた。
・観光ツアーでは集落散策やポールを使うことで全身の筋肉を刺激するため普通のウォーキングよりエネルギー消費量が20%も増加するというノルディックウォーク取り入れてを実施した結果、満足度調査での目標を上回り、88%が満足と回答した。
・イベントなどでPRグッズ2点制作したものを配布し、集客を図ることができた。
・ラッピングカーによる出動回数の当初目標では10回としていたが、募集・契約等が遅れたため3回（離島フェア、村新年会・成人式、イオン那覇店物産フェア）の出動となり、目標に達成しなかった。

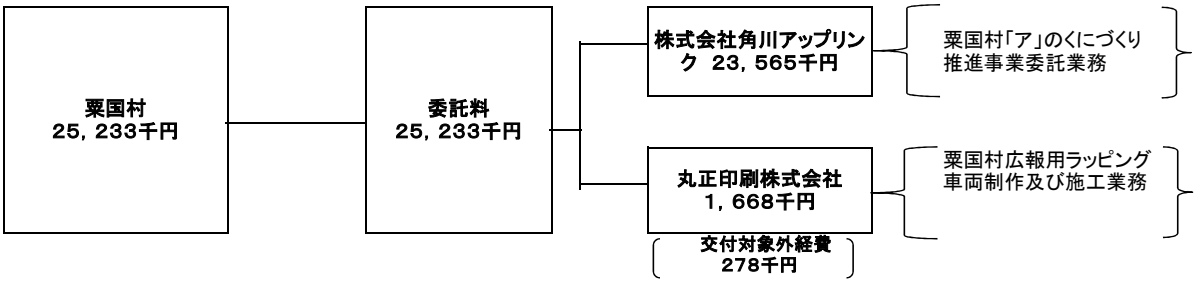
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	当初予定していたラッピングカーによるPR・出動活動（とまりんフェスタ等）が車両ラッピングの募集・契約が遅れたために、目標の出動回数10回を達成しなかった。本村の認知度はまだ低いことから、観光客数が伸び悩んでいたため、観光客の誘客に向け、本村の認知度を高めるため、イベントや観光ツアーを開催しマスコミやマスメディアを活用し情報発信を行った。しかし、まだ本村の魅力を十分に発信しているとは言えない状態である。島内外での周知広報活動を引き続き強化する必要がある。	ラッピングカーの出動回数を増やすために、計画的に村内外で行われるイベントに参加し、広報活動を行う（村内：むんじゅる節の日記念行事、粟国村「ア」の国まつり、新年会、その他イベント、村外：離島フェア、とまりんフェスタ、その他イベント）。イベントを通じて観光客が本村へ訪れるきっかけづくりや満足度を高めるメニューづくりを行い、事業が計画どおり執行出来るように努める。

今後の取り組み方針

粟国村観光振興計画で設定している平成33年の観光入域客数1万人を目指して、県内外へ情報発信し観光客数の入域数の増加に取り組んでいくため、県外イベントへの参加や、県内で行われるイベントへ参加し、ラッピングカーによるPR活動を行い『粟国島「ア」の国まつり』への誘客や観光入域増加に繋げていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
25,511	25,233	20,186	5,047	278



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については3社見積に基づいて適正に積算を行っている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－④	観光ガイドブック制作事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

観光振興を図るため、観光情報の発信及び県内外のみならず外国人観光客に対応するための日本語版、英語版、中国語版、韓国語版の観光ガイドブックを作成する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	29年度	30年度	31年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	22,304				
	(b) 予算現額	22,304				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)	22,304				
B. 執行済額		22,299				
うち交付金充当額		17,839				
次年度繰越額		—				
執行率（%）（B/A）		99.9%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
ガイドブック14，000部作成 日本語10，000部 英語1，000部 韓国語1，000部 中国語（簡体）1，000部 中国語（繁体）1，000部	目　標	（　14，000部　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	14，000部			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：実施計画に基づき、観光ガイドブック（日本語10，000部、英語1，000部、韓国語1，000部、中国語（簡体）1，000部、中国語（繁体）1，000部）を14，000部作成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
外国人が利用する場所に配置：5カ所	目　標	（　）	（　5カ所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		5カ所			
村外イベントで配布：3カ所	目　標	（　）	（　3カ所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		0カ所			

進捗状況説明：
・外国人が利用する場所、本島の観光案内所や県内外土産品店（2カ所）、泊港、村観光協会の5カ所へ配置し、目標を達成した。
・多言語の翻訳等に時間がかかり、2月末の納品となったため、目標である村外イベント3カ所での配布が出来ず、達成が出来なかった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・多言語のガイドブックを作成したが、海外の観光客の受け入れについては、村全体で取り組んでいく必要がある。 ・ガイドブックの納品が年度末となったことから、村外イベントでの配布ができなかった。	・多言語のガイドブックを活用して、国内外の観光客が楽しめるよう、ツアーの企画や観光情報等も多言語で発信するなど取り組みを図る。 ・今後の村外でのイベントに計画的に観光誘客のために配布を行い、周知を図る。

今後の取り組み方針

村内宿泊施設や県内外の観光案内所で設置・配布を行い、粟国村観光振興計画で設定している平成33年までに観光入域客数1万人をめざして、島の自然や伝統文化などの地域資源を国内外へ情報発信することで、国内外からの観光客の増加（獲得）を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,299	22,299	17,839	4,460	0

粟国村
22，299千円

委託料
22，299千円

丸正印刷株式会社
22，299千円

粟国村観光ガイドブック制作事業委託業務

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については3社見積に基づいて適正に積算を行っている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑤	「シタリー節」歌碑建立事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	教育委員会　総務課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）
事業内容	本村で教訓歌として受け継がれている「シタリー節」を新たな観光資源として活用するため、歌碑を建立する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	13,106				
	(b) 予算現額	13,106				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	13,106				
B. 執行済額		11,329				
うち交付金充当額		9,063				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		86.4%				
予算の状況の説明		1，777千円の不要額は、工事費の入札残によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	30年度	31年度
「シタリー節」歌碑建立	目　標	（　歌碑建立　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	歌碑建立			
パンフレット作成200部	目　標	（　200部　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	200部			

達成状況説明：村内の教訓歌である歌碑が建立され、新たな観光資源になった。また次世代の子どもたちまた村内外へ語り継ぐために、パンフレットを活用し、発信できるようになった。またパンフレットについては、観光協会へ100部学校へ100部配布し村内外へアピールすることが可能になった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
「シタリー節」歌碑建立完了	目　標	（　）	（　建立　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		建立			
パンフレットの配布や村広報・村HP周知活動	目　標	（　）	（　周知活動　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		配布のみ			
教育現場での活用	目　標	（　）	（　現場活用　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		現場活用出来なかった			

進捗状況説明：
○当初の計画通り、「シタリー節」歌碑建立し、緑地公園に建立することができた。シタリー節は歌詞が何通りもあることから選定に時間がかかり、年度末の完成となった。
○歌碑の完成が3月になったことから年度内の周知活動として、パンフレットは観光協会・学校へ100部ずつ配布し、教育委員会便りに記事掲載を行ったが、村広報・村HPへの掲載ができなかった。
○歌碑の完成が3月になったことから、年度内の教育現場での活用は、出来なかったが、平成28年度に歌会等を開催し、教育現場で活用する。

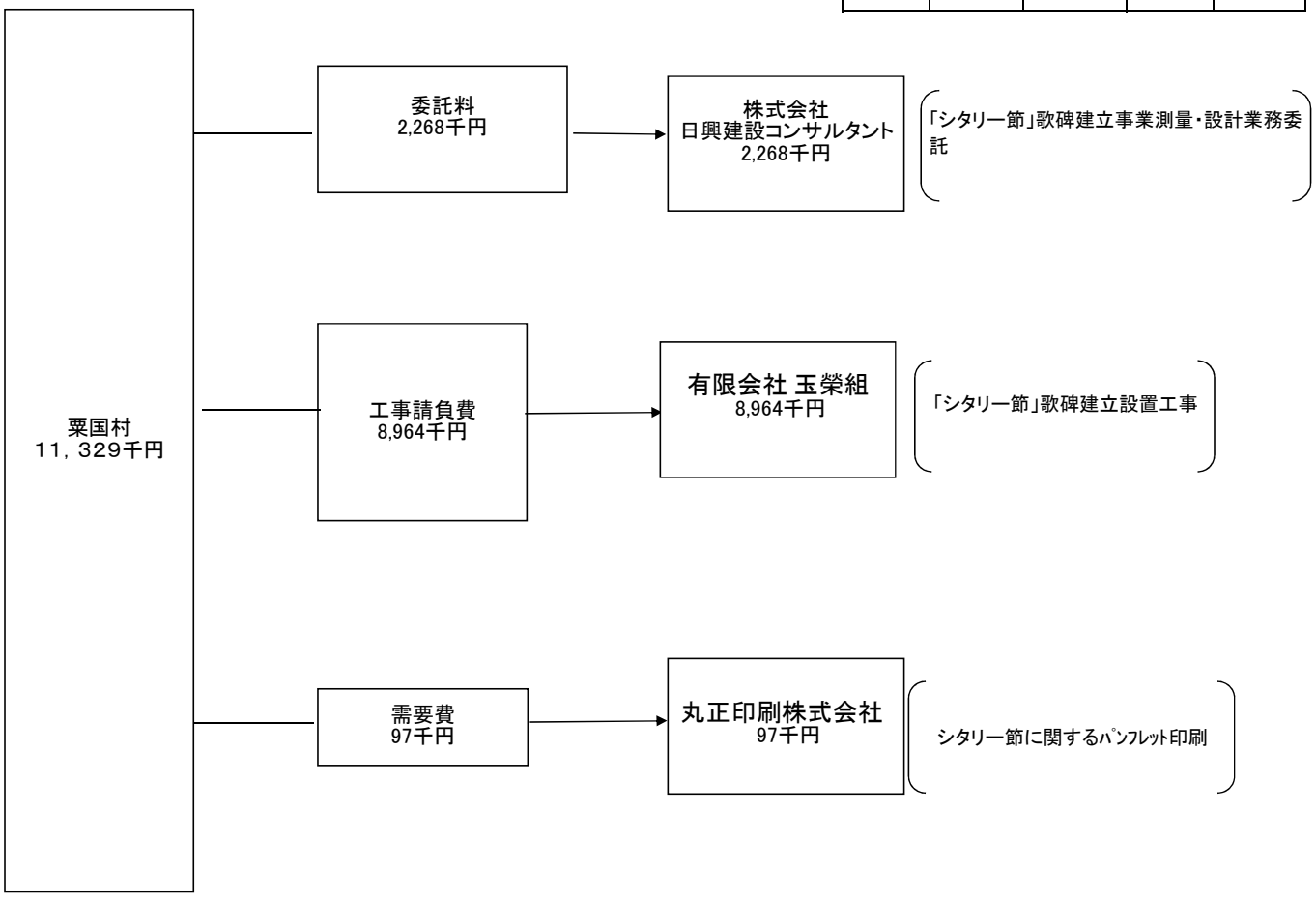
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○計画通りの歌碑建立となったが、知名度が低いうえ、歌うのが難しいことや、地域によって方言が変わるため、歌碑の歌詞について、疑義が生じるなどの課題がある。 ○年度末の完成により、周知活動や教育現場での活用ができなかった。	○方言については、地域によって変わるため専門家の意見が必要であり、文化財保護委員と検討し、精査する必要がある。また、子供や観光客に周知を図る必要がある。 ○今後、村の文化教育を一環して学べるよう教育活動に計画的に盛り込むことが必要である。また、村内外の方への周知については観光協会とタイアップして、観光資源としての周知について取り組みを行う。

今後の取り組み方針

今後シタリー節が広まるよう学校と協力し子どもたちも歌えるようパンフレット等を活用し学べるよう環境を整える。
シタリー節は、アカペラで歌うため音程が取りづらく、三線の音色に乗せられないか検討し、次世代へ語り継ぎやすいようにする。
また新たな観光資源として、観光マップ等にも掲載してもらうようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,329	11,329	9,063	2,266	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定について、工事・設計ともに指名入札を行った。またパンフレットについては50万以下の契約のため3社見積もりをとり、随意契約を締結しているため妥当である。 ○予算規模ににについて　村規定に基づき、積算し予算計上している。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑥	粟国村偉人顕彰碑建立事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	教育委員会　教育総務課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）
事業内容	本村を代表する偉人4名の功績を顕彰碑として建立することにより、新たな観光資源として村内外に広めることを目的とする。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,037				
	(b) 予算現額	7,037				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	—				
	A. 計 (b+d)	7,037				
B. 執行済額		4,923				
うち交付金充当額		3,938				
次年度繰越額		—				
執行率（%）(B/A)		70.0%				
予算の状況の説明		当初4基の整備を予定していたが1基の整備を見送ったため、2，114千円の不用が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
本村偉人顕彰碑建立　4箇所	目　標	（　4箇所建立　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3箇所建立			
パンフレットの作成200部	目　標	（　200部　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	200部			

達成状況説明：顕彰碑について、当初計画では、4基の建立であったが対象にしていた1名の偉人について、疑義が生じ詳しく調査した結果、適当でないことが判明したため4基から3基の建立へ変更した。他のものについては、当初の計画通り執行できた。
ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄについても3月に作成でき、当初の計画通り執行できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
本村偉人顕彰碑建立　4箇所	目　標	（　）	（4箇所完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		3箇所完了			
ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄの配布や村広報・村HP周知活動	目　標	（　）	（周知活動）	（　）	（　）	（　）
	実　績		配布のみ			
教育現場での活用	目　標	（　）	（現場活用）	（　）	（　）	（　）
	実　績		現場活用出来なかった			

進捗状況説明：
○本村偉人顕彰碑建立は、4箇所の予定であったが、該当する1名の偉人の略歴に問題があり顕彰をとりやめる結果となり、当初の目標を達成できなかった。
○顕彰碑の完成が3月になったことから年度内の周知活動として、パンフレットは観光協会・学校へ100部ずつ配布し、教育委員会便りに記事掲載を行ったが、村広報・村HPへの掲載ができなかった。
○歌碑の完成が3月になったことから、年度内の教育現場での活用は、出来なかったが、平成28年度に歌会等を開催し、教育現場で活用する。

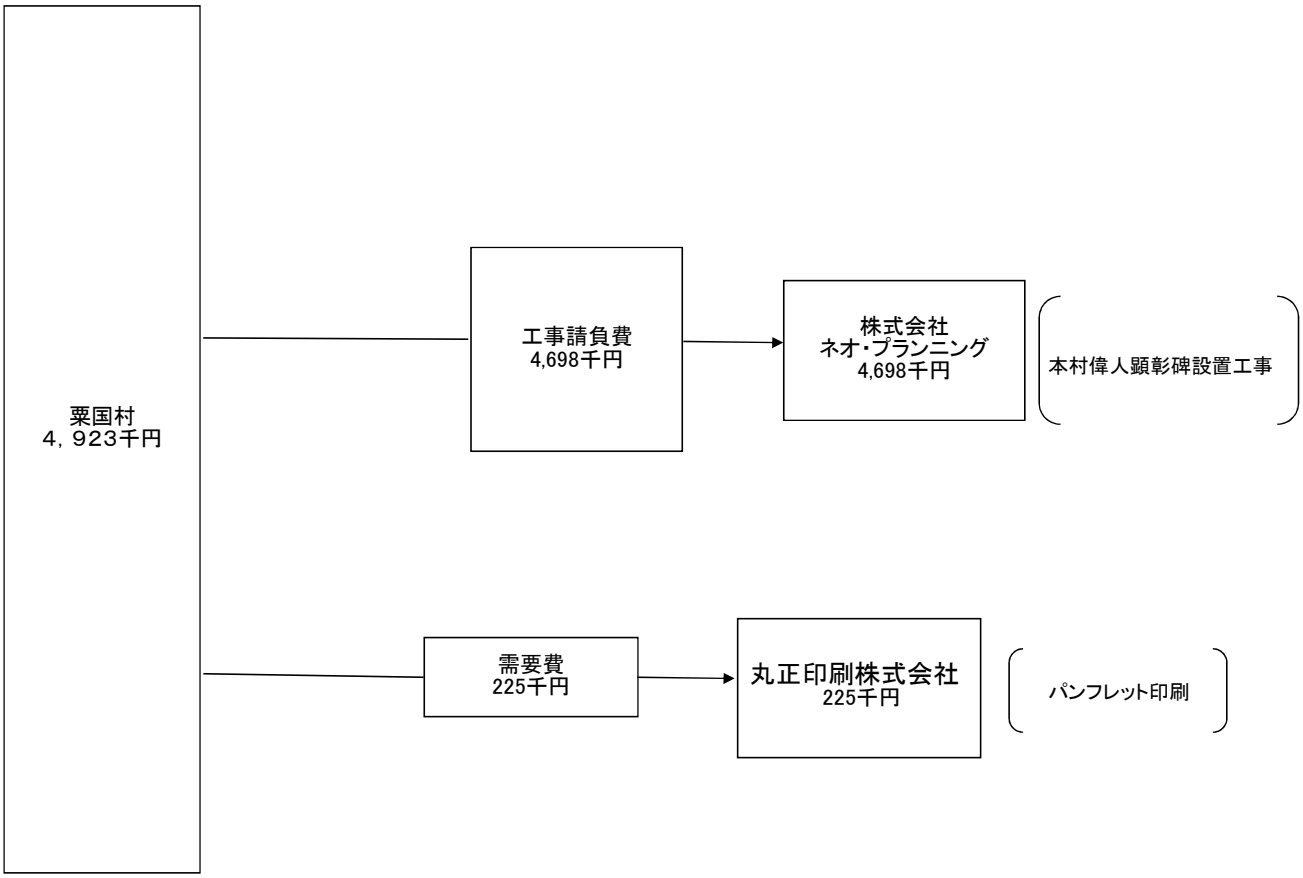
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○文化財保護委員会や専門家等に諮り、調査に十分な時間と検証を行い、審議を重ねる必要があった。 ○知名度が低いため、調査資料が少なかった。 ○周知活動や現場での活用が年度内に出来るよう、事業着手を早期に行う必要があった。	○村内に残っている資料だけでなく、新聞紙等にも重要なことが書かれている場合があるため、調査することが必要であると同時に文化財保護委員会や専門家へ諮り、十分な審議が必要である。また、周知活動を行うためには、事業の早期着手ができるよう計画を早めに行うよう努める。 ○村内での知名度も低いため、子供や観光客への周知が必要である。

今後の取り組み方針

観光協会が発刊している観光マップに、顕彰碑建立箇所の掲載と説明を追加してもらい、村内外へアピールする
村内外で活躍した偉人の歴史を子どもたちへ伝えることにより、村の歴史学習と愛郷心を育てる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,923	4,923	3,938	985	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定について、工事は指名入札を行い適正に執行された。またパンフレットについては50万以下の契約のため3社見積もりをとり、随意契約を締結しているため妥当である。 ○予算規模ににについて　村規定に基づき、積算し予算計上している。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑦	観光サイン整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章―3－（2）―ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ―1―（1）
事業内容	地域の文化資源を適切でわかりやすく情報提供するための誘導案内や、解説板を整備することにより、適切な案内誘導を進めるとともに、歴史や文化の学習の機会となるなど、村民と観光客の交流促進や観光振興の充実を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,212				
	(b) 予算現額	4,212				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	4,212				
B. 執行済額		4,102				
うち交付金充当額		3,281				
次年度繰越額		―				
執行率（%）(B/A)		97.3				
予算の状況の説明		不用額が111千円発生しているが、契約額減による残によるものである、				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
観光サイン整備計画の策定	目　標	（観光サイン整備計画の策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	観光サイン整備計画の策定完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：現地調査、観光客へのアンケートをふまえ、設置場所やデザインについて検討委員会を開催し観光サイン整備計画を策定した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
誘導サイン及び解説板の設置場所や解説案内を盛り込んだサイン整備計画を策定完了	目　標	（　）	（サイン整備計画を策定完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		サイン整備計画を策定完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：現地調査、観光客へのアンケートをふまえ、誘導サイン及び解説板の設置場所や解説案内について検討委員会を開催し観光サイン整備計画を策定、整備費の算出を行った。

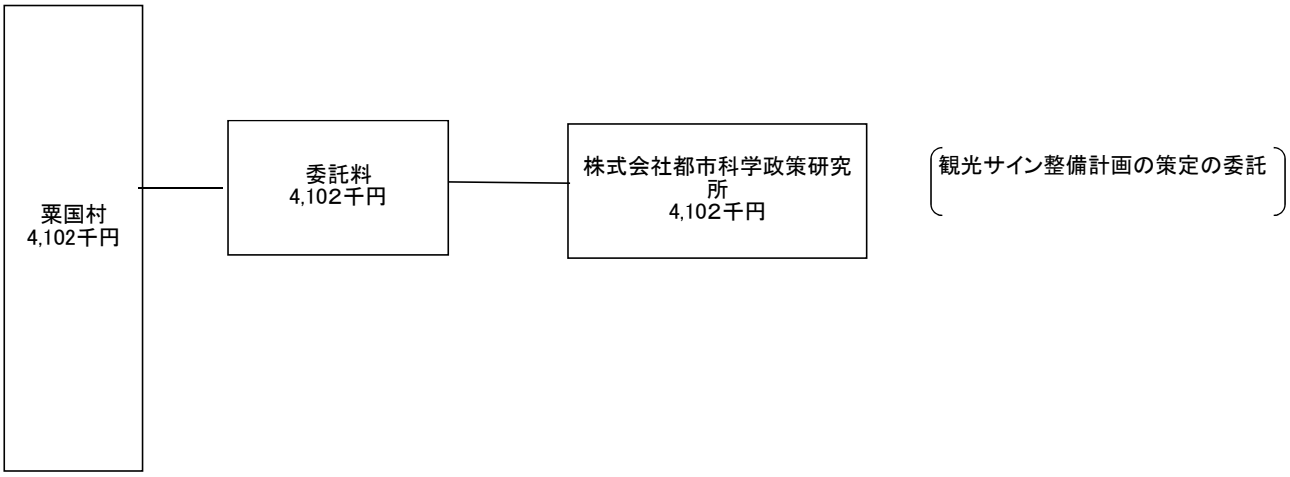
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	地域に愛着や誇りを持てるよう島の自然や歴史文化を学習出来る機会として、また観光客の交流促進につながる誘導サインや解説板の整備が十分でないため観光サイン整備計画に取り組んだ。情報の一貫性や形状・仕様の統一性が得られないまま整備されたりすることから、定期的なサインの情報更新や関係者協議を行い、整備後の維持管理方法、管理の役割分担を明確にする必要があるなどの課題がある。	既存サインにも配慮した字ごとの地域カラーで統一したサインの整備をおこなうことや拝所など公開できない場所を分けて整備する必要がある。

今後の取り組み方針

村民や来島者に分かりやすい情報の提供と誘導を行うため、平成28年度は基本計画で設置を検討したデザインや耐久性のある素材や加工を行い、多様な来島者に対応できるよう新規サイン67基、路面誘導サイン10路線、既存サイン撤去20基の整備を行う予定である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,102	4,102	3,281	821	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考えている。 ○予算規模については、3社見積に基づいて適正に積算を行い、不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑧	照喜名原地区整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章―3－（2）―ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成２７～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ―1―（1）
事業内容	村の南東海岸に約1kmの長さで分布するウーグの浜を含む照喜名原地区を観光地として活用するための基本計画を策定する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,560				
	(b) 予算現額	7,560				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	7,560				
B. 執行済額		7,506				
うち交付金充当額		6,004				
次年度繰越額		―				
執行率（%）(B/A)		99.3%				
予算の状況の説明		不用額が54千円発生しているが、契約額減による残によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
照喜名原地区整備基本計画の策定	目　標	（基本計画の策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	基本計画の策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：照喜名原地区の現況と課題の整理、意見交換会2回、検討委員会2回開催し、照喜名原地区整備基本計画を策定した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
照喜名原地区整備基本計画の策定完了	目　標	（　）	（策定完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		策定完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：照喜名原地区の現況と課題の整理、意見交換会2回、検討委員会2回開催し、照喜名原地区整備基本計画を策定した。照喜名原地区整備基本計画を基に、次年度は基本設計を実施し、海岸沿いを活かした新たな観光スポットの整備を進める。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	照喜名原地区は、防風林や拝所、ウミガメの産卵、珊瑚礁などエリアごとに保全と活用を行う必要があり、意見交換会でも自然環境の保全や住民が大切にしている拝所に配慮してほしいとの声が多かった。	エリアごとにレクレーション広場、保存すべき自然環境を学習できるなど、村民や観光客が幅広い体験ができ、自然環境の保全につながるような取り組みと拝所に配慮する一方で重要な場所であると認識付ける整備も必要である。

今後の取り組み方針

照喜名原地区整備基本計画を基に、平成28年度は基本設計を行い、この地区の新たな観光スポットとして整備する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,506	7,506	6,004	1,502	0

粟国村
7,506千円

委託料
7,506千円

中央開発株式会社
7,506千円

（照喜名原地区整備基本計画策定業務の委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5％以内であり適正な規模であった。予算規模については、3社見積に基づいて適正に積算をおこなっている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－①	国際交流支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー5ー(4)ーア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育総務課	事業実施（予定）年度	平成２７～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3－1
事業内容	村内の中学生を対象に、欧米への語学研修の支援を行い、海外での生活体験を通して外国語への学習意欲の向上と豊かな国際性を身につけた人材の育成を図る。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,805				
	(b) 予算現額	1,805				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	1,805				
B. 執行済額		1,508				
うち交付金充当額		1,340				
次年度繰越額		―				
執行率（%）(B/A)		83.5%				
予算の状況の説明		不用額297千円は、交付申請額の減によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
海外ホームステイ生徒派遣	目　標	（　3名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3名			

達成状況説明：中学生の参加希望者が予定人数3名を上回る6名であったため選考を行った。参加決定者はALTや英語担当教員、教育委員会で事前学習を実施した。7月下旬～8月にかけた夏期休校の時期にアメリカ合衆国ワシントン州ポートオーチャードへホームステイ派遣を実施した。また帰国後、村内行事での発表も実施して成果報告もすることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
行った結果の報告を、英文レポート提出	目　標	（　）	（提出）	（　）	（　）	（　）
	実　績		提出			
英検の受検	目　標	（　）	（受検）	（　）	（　）	（　）
	実　績		受検			
英語スピーチコンテストへの出場	目　標	（　）	（出場）	（　）	（　）	（　）
	実　績		出場			

進捗状況説明：英文レポートを作成し、学習発表会で発表を行った。
また英語検定は、ホームステイ参加者3名の内2名が受検している。参加者以外の受検も、ホームステイ実施前は0名だったが、実施後の受検者は12名になっている。
ホームステイ参加者が学校代表として英語スピーチコンテストへの参加を果たしている。

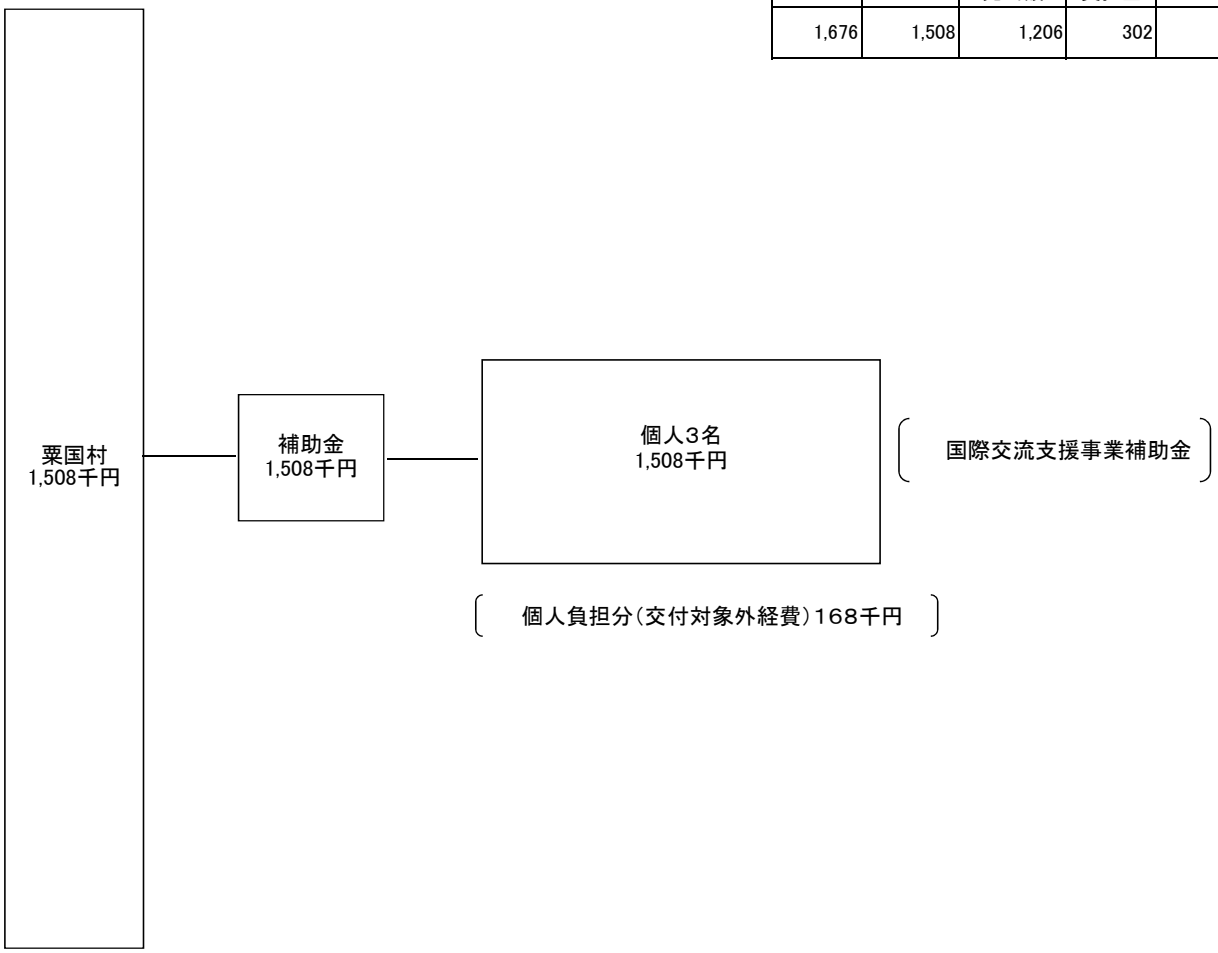
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	村内行事での発表を行う事で、参加したことの意義の確認、そして参加していない生徒達の学習意欲喚起、参加意欲喚起へとつなげる。	ALTや英語担当教員による指導があるが、言語だけでなく、心構えや習慣等実際に生活体験をするために必要なことも指導する必要がある。 参加者に発表以外にどのような影響があるのか確認をすることで、参加することで得られるもの具体的にする。

今後の取り組み方針

事前学習を行う際にどのようなことを教える必要があるか、事業者に相談のうえでALTを活用する。
参加者への影響は学校での授業や検定等への取組の姿勢やその他活動への参加状況等を確認する。
参加者以外の生徒へどのような影響を与えているか、村内行事での発表の場、もしくはその後日にアンケートの実施を検討する。
参加希望者が多く、人材を育てる上で貴重な体験となるため、参加可能人数の増加を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,676	1,508	1,206	302	168



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○粟国村補助金等交付に関する条例に基づき支給していることや派遣費の使途については精算時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○事業への参加希望者からの書類提出を受けて、教育委員会において選考し、参加者を決定した。その後、補助申請を受けて書類確認の上で補助金の支出を行った。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○10%を受益者負担としており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当ある。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	学力向上支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3－（11）－（イ） 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
担当部課名	教育委員会　総務課	事業実施（予定）年度	平成２７～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－1
事業内容	離島という地理的条件による教育環境格差を解消するため、村営塾を開催するとともに、小学校及び中学校の学習支援のため、学習支援員を配置し、児童生徒の学力向上を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	18,688				
	(b) 予算現額	13,688				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 5,000				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	13,688				
	B. 執行済額	10,744				
	うち交付金充当額	8,595				
	次年度繰越額	―				
	執行率（%）(B/A)	78.5%				
	予算の状況の説明	当初予算では、12ヶ月実施する予定であったが、塾講師（2名）の引っ越し作業及び学校との調整等により遅れが生じたため、10月交付決定変更で5,000千円減額したほか、精算時の実績減により2,944千円の不用が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
村営塾の開催実施　小・中学生週2～3日	目　標	（　週3日　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	4･5年生　週3日実施 6年生　週4日実施 中1～2年　週4日実施 中3年　週5日実施			
・小学校及び中学校へ学習支援員を配置 2名	目　標	（　2名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	2名			

達成状況説明

村内の小中学校へ支援員2名の配置と村営塾を開催し、児童生徒への学習支援を実施した。村営塾の受講率も66%となり半分以上の参加であった。
小学生及び中学生の1コマは、40分とし下記のとおり実施
○小学4年生及び5年生は、週3日間3コマ実施（火水金）
○小学6年生は、週4日間4コマ実施（火水木金）
○中学1年生は、週4日間10コマ実施（月水木日）
○中学2年生は、週4日間10コマ実施（火水金日）
○中学3年生は、週5日間13コマ実施（月火木金日）

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
全国学力調査で県平均を上回る	目　標	（　）	（県平均以上）	（　）	（　）	（　）
	実　績		下回った			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

4月に行われた全国学力学習状況調査結果では、全体的に全国・県平均を下回る結果となった。小規模校なので、ひとりの解答の正誤によって正答数や正答率に大きく影響した。
○国語A（全国正答数-4.7、県正答数-4.8）　国語B（全国-1.0　県-1.1）　数学A（全国-3.5、県-3.6）　数学B（全国-1.8、県-2.0）　理科（全国-0.3、県-0.4）

2月に行われた県到達度テスト結果では、全体的に大幅上回る結果となった。基礎・基本が定着している結果といえる。
○国語（本校正答率56.4%、県正答率52.1%）、数学中1（本校60.4%、県正答率44.5%）、数学中2（本校50.4%、県正答率42.7%）
理科（本校正答率60.4%、県正答率49.4%）、社会（本校65.0%、県正答率50.4%）、英語（本校57.7%、県正答率53.9%）

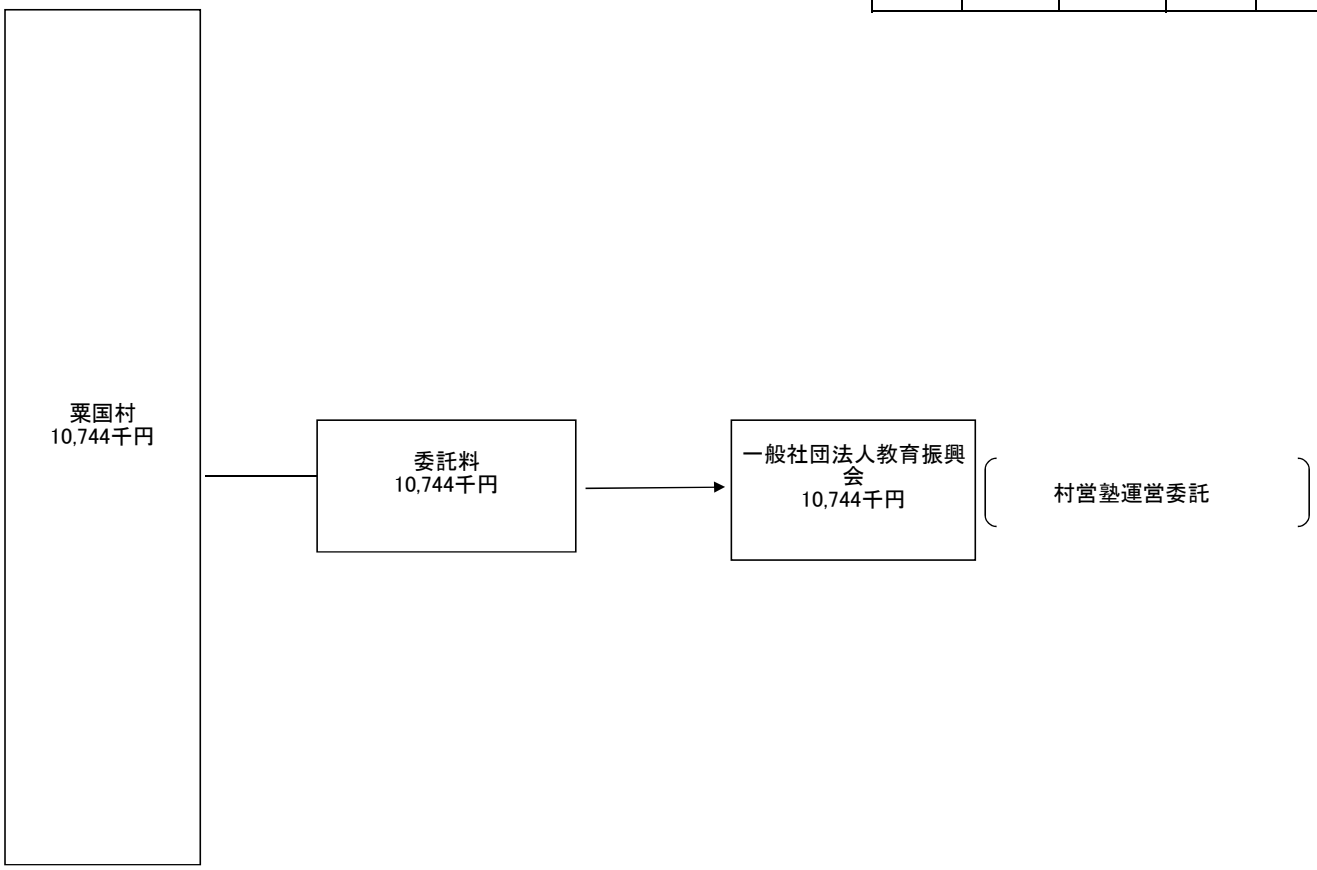
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○村営塾について、本村の小中学校は部活動が盛んで、部活動の時間と塾の時間の調整に時間がかかった。 ○学校行事、部活動大会等で支援員・塾を開催できない日があった。 ○受講率が66%なので、いかに児童生徒が受講し易い環境を整えるかが課題である。	○学校と連携し、部活動終了時間と塾の開始時間を調整し、また児童生徒の保護者へは、軽食を持参させるよう依頼。 ○事前調整し休講日を利用して運営。 ○塾へ参加し易いように、○○塾ではなく○○放課後支援教室や○○教室に名前を変え、気軽に受講しやすい環境を整える。

今後の取り組み方針

学校・保護者・教育委員会の連携を密にし、情報交換を行いながら本村にあった運営を行っていく。
塾の名前が現在「アニー塾」となっているが、放課後勉強会等に名前を変更し、受講しやすい環境を整える。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,744	10,744	8,595	2,149	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模について　村規定に基づき、積算し予算計上している。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－③	粟国村キャリア教育支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー5ー（3）ーウ 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育総務課	事業実施（予定）年度	平成２７～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー3－1
事業内容	村内の小中学生を対象に多種多様な職業を見学・体験する機会を設け職業観の幅を広げ、就業観を形成することにより、学習の意欲の向上を図ることで本村の人材育成を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,494				
	(b) 予算現額	6,494				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	6,494				
B. 執行済額		6,480				
うち交付金充当額		5,184				
次年度繰越額		―				
執行率（%）(B/A)		99.8%				
予算の状況の説明		不用額14千円は、契約額減による残,によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
・研修講演　1回	目　標	（　・1回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	・小学校2回 ・中学校3回			
・沖縄本島での職業見学・体験　1回	目　標	（　1回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	・小学校1回 ・中学校1回			

達成状況説明：研修は、沖縄本島での職業見学・体験の前に学校の授業の時間を利用し外部より講師を招き実施した。小学生は2回、中学生は3回、観光についての研修をスカイプを使用しながら行った。
児童生徒（小学5年生～中学3年生）を沖縄本島での職場体験・見学を実施することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
・児童生徒に対する研修講演	目　標	（　）	（　・1回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		・小学校2回 ・中学校3回			
・沖縄本島での職業見学・体験 中学生21名（中学1～3年生） 小学生15名（小学5～6年生）	目　標	（　）	（沖縄本島での職業見学・体験　中学生21名（中学1～3年生）小学生15名（小学5～6年生））	（　）	（　）	（　）
	実　績		沖縄本島での職業見学・体験 中学生21名（中学1～3年生） 小学生15名（小学5～6年生） ・中学校1回			

進捗状況説明：研修は、小学校2回、中学校3回実施した。今回講演は実施していないが、本島での職業見学体験に繋げることができる研修を優先したためである。
沖縄本島での職業見学・体験も小中ともに1回の実施をしている。

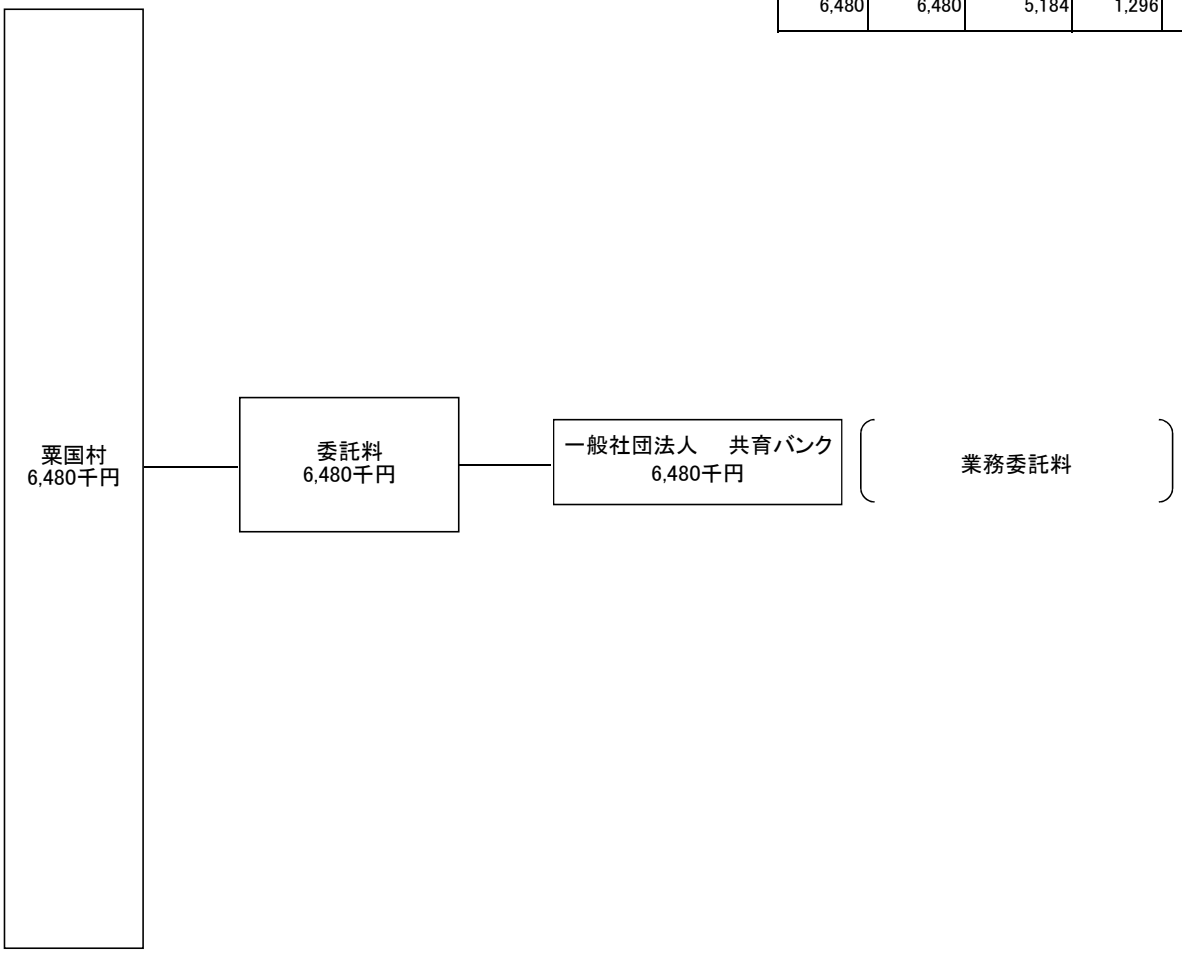
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	業者選定、日程調整の際には学校と連絡を密に行う必要がある。 児童生徒にはできるだけ、希望の職種の体験をしてもらうために、事前に確認をして実施しているほか事前学習を実施することにより、目的意識をもって参加するように促している。 一方でこの事業が児童生徒にどのような影響を与えたのか把握しきれない部分がある。	沖縄本島へ移動する際の手段が、フェリー及びヘリとなっているが、欠航時の対応等、スケジュールに関することについて保護者への説明も含めた対応を考える必要がある。 事業終了後、児童生徒の進路や就業観にどのような影響を与えているのか確認する必要があり、またどの時期まで検証するかの検討もしなければならない。

今後の取り組み方針

受託事業者、学校、教育委員会でスケジュールの管理、欠航時の対応、保護者への説明会等について話し合いをもち共通認識を持っておく。
また実際体験したことが進路にどのような影響が出るのか、学校への進路確認や教育委員会の高校訪問等の別の事業と組み合わせ確認をする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,480	6,480	5,184	1,296	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ・費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	児童・生徒派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－５－（２）－（ア） 教育機会の拡充
担当部課名	教育委員会　総務課	事業実施（予定）年度	平成２７～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（１）
事業内容	離島である本村の児童生徒の諸教育活動への派遣費を支援する				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,416	0	8,673		
	(b) 予算現額	2,571	0	8,673		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 845	0	0		
	(d) 繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	2,571	0	8,673		
B. 執行済額		526	0	1,048		
うち交付金充当額		421	0	838		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		20.5%	0.0%	12.1%		
予算の状況の説明		８月の航空機事故により運休となったことに伴い、フェリーでの派遣となったこと、また天候悪化等によるフェリー欠航等により、7,625千円の不用が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
大会及び教育活動への派遣	目　標	（　派遣　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	派遣実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：悪天候等によりフェリー欠航で参加できない大会もあったが、バドミントン大会・リコーダーコンテンスト・交流学習といったスポーツ・文化・教育活動に係る派遣実施ができた。本村の学校では、児童生徒の積極的な部活動に取り組む姿勢が高いためバドミントン大会では、優秀な成績を収めることができ、また九州大会への派遣も実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
大会等派遣児童・生徒数	目　標	（　）	（　57名　）	（　0名　）	（　50名　）	（　）
	実　績		143名	0名	192名	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：児童生徒が活躍したことで、目標の大会派遣児童・生徒数を大幅に上回ることができた。
８月の航空機事故により飛行機からフェリーへ計画を変更した。

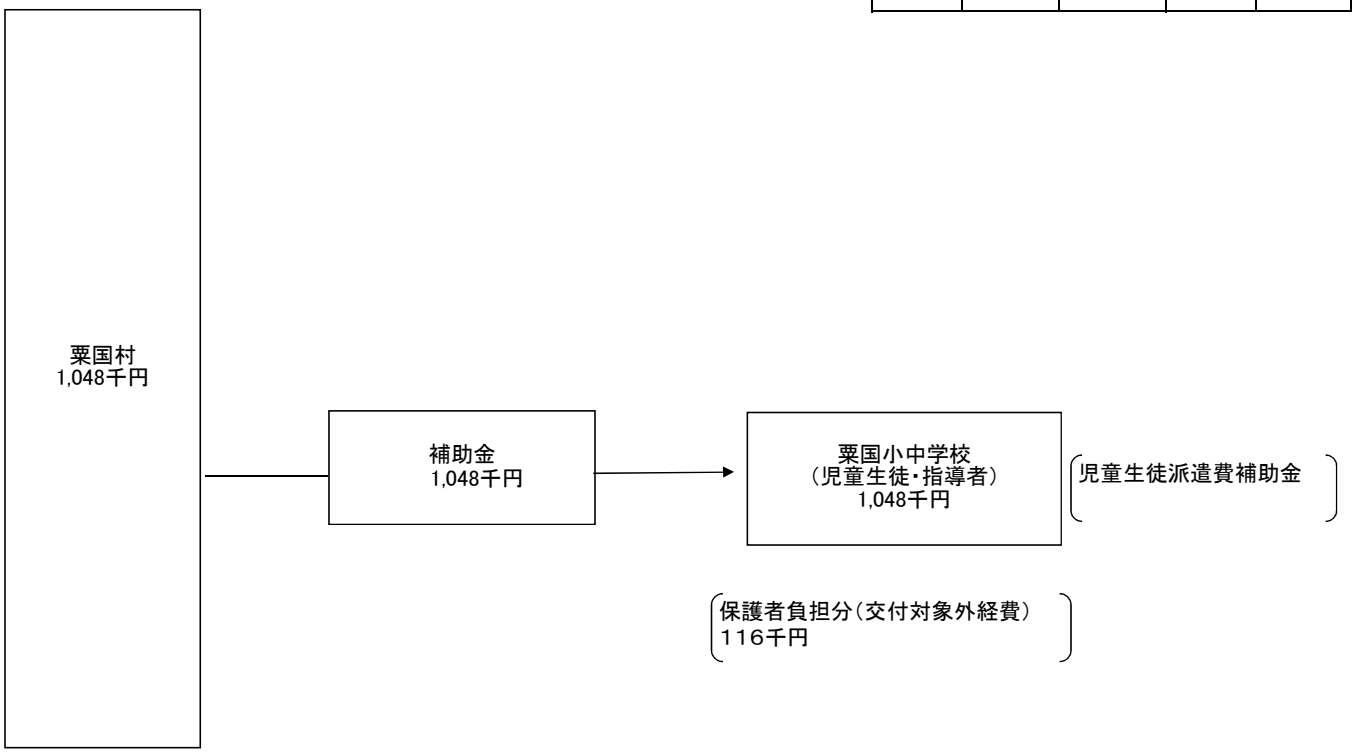
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	台風前後や冬場はフェリーの欠航率が高く、児童生徒等が島外へ移動できずに大会等に不参加となるケースがあったため、平成27年度は飛行機での移動としたが、8月に発生した航空機事故のため、結局フェリー利用になってしまった。	天候に応じて飛行機及びフェリーを使い分けるなど、交通機関と連携して計画した大会等に確実に児童生徒を派遣できるよう対応する必要がある。

今後の取り組み方針

計画した大会等に児童生徒を確実に派遣できるよう、交通機関と連携し、天候に応じて飛行機及びフェリーを使い分ける。
また必要に応じて、飛行機の運航が開始されない場合は、フェリー欠航の場合に限り、ヘリタクシーでの派遣ができないか検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,164	1,048	838	210	116



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先について、粟国村児童生徒派遣費補助金要綱に基づき、粟国小中学校を通して児童・生徒に間接的に補助する携帯であり、妥当である。 ○予算規模については、航空機事故による大幅な不要が発生しており事業規模の見直しが必要である。 ○受益者負担については粟国村児童生徒派遣費補助金要綱に基づいて保護者から一律の負担となっており、妥当であったと考える。 ○費目・使途については、粟国村児童生徒派遣費補助金要綱に基づき支給していることや派遣費の使途については精算時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3	粟国村グリーンエコアイランド化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー1ー（3）ーイ クリーンエネルギーの推進
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成２７～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー10ー（1）
事業内容	低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した島づくりの推進を図るため、村内に設置されている蛍光灯・ナトリウム灯のLED化事業を実施する				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,635				
	(b) 予算現額	2,635				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	2,635				
B. 執行済額		2,385				
うち交付金充当額		1,908				
次年度繰越額		―				
執行率（%）(B/A)		90.5%				
予算の状況の説明		不用額が250千円発生しているが、委託の入札残によるものである、当初計画していた事業内容はすべて実施したほか適正に執行された。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
村内の防犯灯の調査及び新たな設置と撤去について聞き取り調査を行い、LED化へ向けた工事設計を行う。	目　標	（　防犯灯の調査　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	防犯灯の調査完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	
	村内防犯灯の現況調査を行い、設置・撤去箇所についての聞き取り、設置基準案、整備費の算出、LEDへ移行後二酸化炭素の排出量等について検討委員会を開催し決定した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
村内防犯灯のLED設置箇所の決定	目　標	（　）	（設置箇所の決定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		設置箇所を決定			
撤去する防犯灯の決定	目　標	（　）	（撤去箇所の決定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		撤去箇所を決定			

進捗状況説明	
	当初の計画（現況の調査、設置・撤去箇所の決定、整備費の算出、消費電力の削減、二酸化炭素の低減について）は達成できたが、さらに低炭素社会の実現に向けたアクションプランも必要である。

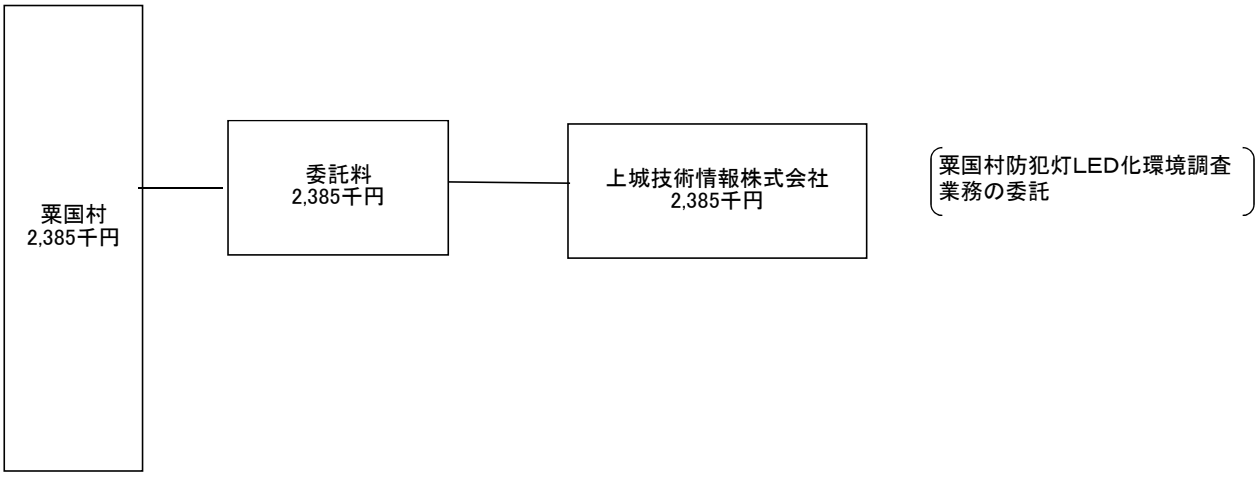
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・周辺の景観に配慮した設置方法について検討する必要がある。 ・外灯の照度を確保するため、屋敷を囲むフクギの剪定などの対策も必要である。	・LED灯への移行を計画的に実施し消費電力の削減及び二酸化炭素の削減を図る。

今後の取り組み方針

LED灯への早期移行を行い二酸化炭素削減を推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,385	2,385	1,908	477	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考えている。 ○予算規模については、3社見積に基づいて適正に積算をおこなっている。不用額は事業費の10%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4	和牛改良支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－（3）－イ 圏域の特色を生かした産業の振興
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（6）

事業内容

本村の畜産業の支援のため、付加価値の高い仔牛が生産できるよう県内外から優良仔牛（母牛になる素牛）の導入を支援し、仔牛の付加価値を高めていくことで、畜産業の振興を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,000	3,000	4,500		
	(b) 予算現額	6,000	3,000	4,500		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
	(d) 繰越額	—	—	—		
	A. 計 (b+d)	6,000	3,000	4,500		
B. 執行済額		6,000	3,000	2,400		
うち交付金充当額		4,800	2,400	1,920		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）（B/A）		100.0%	100.0%	53%		

予算の状況の説明：当初15頭の導入を予定としていたが、仔牛の価格の高騰により8頭の導入となり2,100千円が不用となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
和牛導入支援頭数　15頭	目　標	（　20頭　）	（　10頭　）	（　15頭　）	（　　）
	実　績	20頭	10頭	8頭	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：子牛価格が高騰した為、農家自身の資金不足で当初計画とおりに導入することが出来なかった。また、資金のある農家は県内外から導入することが出来た。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（28年度）
優良仔牛（母牛になる素牛）導入率60%（H25～H27累計）	目　標	（　　）	（　36%　）	（　60%　）	（　60%　）	（　100%　）
	実　績		36%	60%	76%	
	目　標	（　　）		（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：平成25年度に20頭、平成26年度に10頭、平成27年度に8頭導入で、76%となっており、平成28年度までに50頭目標としている。
平25～27年度の成果目標の設定を間違えており、本来は平成25～28年度の4年間で50頭の牛を導入予定であり、平成27年度まで45頭導入予定で導入率は90%と設定すべきであったが、誤った数値を設定しており、目標は達成していない。
子牛価格が高騰した為、農家自身の資金不足で当初計画とおりに導入することが出来なかった。

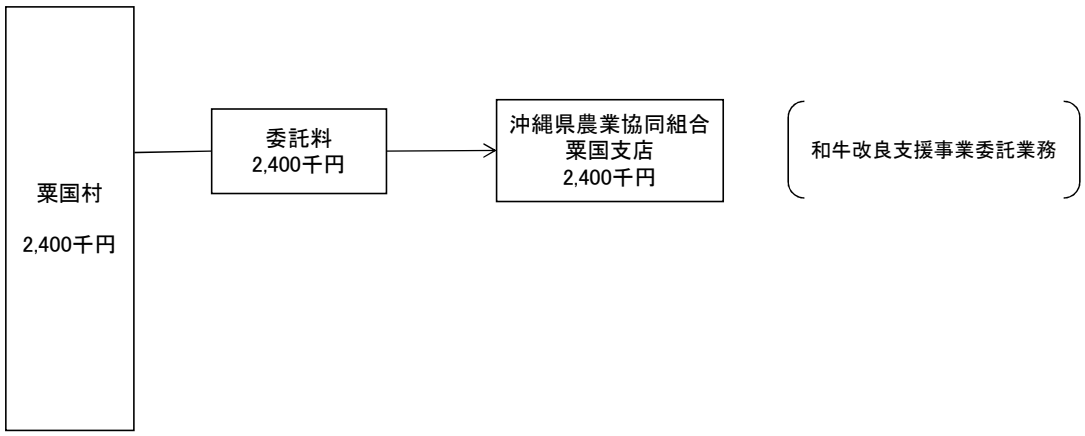
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	畜産農家が小規模経営で、母牛の高齢化が進んでいることから、付加価値の高い仔牛の生産が難しいことから、優良仔牛導入を支援することにより、仔牛の生産向上及び母牛更新により長期的な経営の安定化を図る。導入牛から生まれた雌牛については、1頭を自家保留することを条件に進めており、適切な指導を行う必要がある。仔牛の購入価格の高騰により、計画的な導入ができない現状である。	・導入牛から生まれてきた優良雌牛は、村内で保留することにより母牛の更新を行い、優良仔牛の生産を図ることができた。 ・市場に合わせ、委託費の見直しを行う必要がある。

今後の取り組み方針

全国的にも子牛価格が高騰している為、現在上限30万円としている要綱を一部変更し、導入金額を2/1又は上限40万円まで支援する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,400	2,400	1,920	480	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき、農家の実情を把握し、適切な指導ができるJAと随意契約しており妥当である。 ○予算規模については、導入牛のセリ市場価格を参考に積算しており、適正であった考えている。 ○導入牛のうち、最低価格の544,320円でも受益者負担が4割であり、妥当とある。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	粟国村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5	粟国村交通移動手段安定化対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3ー（11）ーウ 交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化
担当部課名	総務課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲー9

事業内容

離島交通ネットワーク手段を確保するため、定期航空路線再開されるまでの間、チャーターヘリコプターを利用した場合の運賃を一部支援する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,713				
	(b) 予算現額	13,440				
	(c) 増減額 (b-a)	2,727				
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	13,440				
B. 執行済額		13,440				
うち交付金充当額		10,752				
次年度繰越額		―				
執行率（%）(B/A)		100%				
予算の状況の説明		利用者が想定を上回ったため、流用により2,727千円を増額した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
島民及び観光客のチャーターヘリ利用料金を支援	目　標	（利用料金を支援）	（　）	（　）	（　）
	実　績	利用料金を支援			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：11月5日から3月15日まで168フライトに対する支援を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
定期路線再開までの間の島民及び観光客の移動手段の確保	目　標	（　）	（移動手段の確保）	（　）	（　）	（　）
	実　績		移動手段の確保			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：チャーターヘリの運航により、移動手段の確保が行えた。
定期空港路再開までヘリ利用に対し、1フライト8割補助を実施しており、フェリーの補完的交通手段として、583人の利用実績があった。

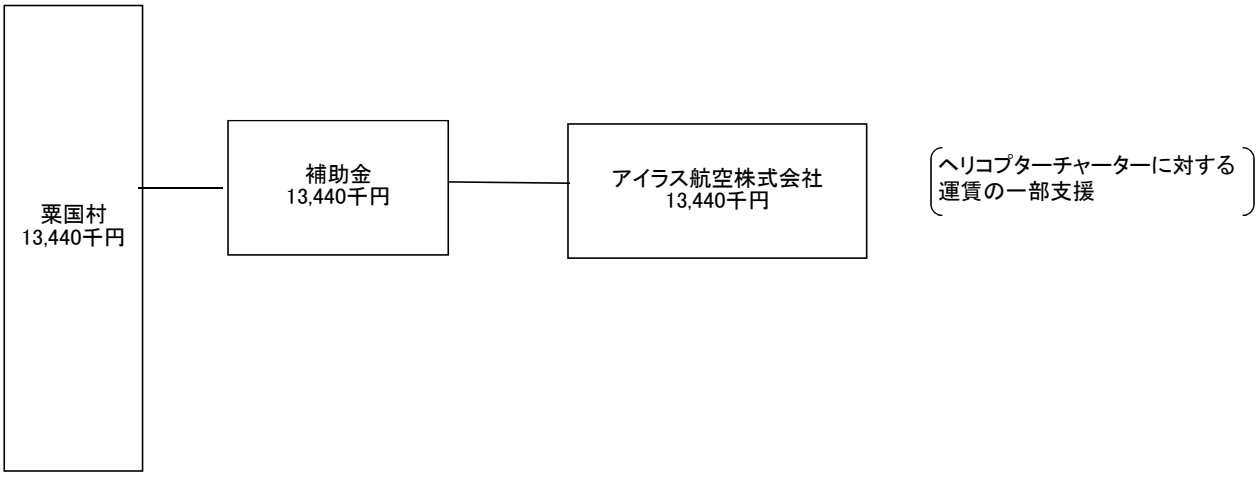
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ヘリチャーター料金を8割補助することにより、空路再開までの補完的交通手段を確保できたが、利用前日からの予約しかできず、乗り合う利用者がいない場合の負担が大きいことや、天候、その他の利用の優先により、確実に利用出来る見込が低いことにより利用しづらい状況となっている。	・利用負担の軽減のため、役場にて乗合の受付を行っているがそれでも、なかなか村民の利用が促進されていないため、1フライトへの補助とするか、定額の負担とするか検討する必要がある。

今後の取り組み方針

1フライトへの8割補助とするか、定額の利用料金として、フライト数の確保を行うか検討する。また、ヘリチャーターの補助について、広く周知する村ホームページ等にて周知する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,440	13,440	10,752	2,688	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、ヘリ運航事業者はアイラス航空株式会社のみが参入しているので妥当である。 ○予算規模は当初の想定を上回ったため流用により2,727千円増額したが、事業内容に見合った適正な規模であった。 ○受益者負担は1フライトに付き8割補助、2割受益者負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	